

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	江東区こども発達亀戸センター			
○保護者評価実施期間	2025年1月8日 ～ 2025年1月21日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	286	(回答者数)	235
○従業者評価実施期間	2025年1月10日 ～ 2025年1月20日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数)	25
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	環境・体制整備の改善 2024年10月に扇橋から亀戸に移転し面積が拡大し保護者から「子どもの活動スペースの十分に確保されている」（90.2%）「生活空間が清潔に保たれている」（93.6%）と高評価を得られた。職員は100%移転後のスペースの使いやすさに高い満足度がある。	児童発達支援の夏休み、冬休み期間では共有部分の掃除や整理整頓等を実施している。移転にあたっては、長年使用されていないものをかなり処分、廃棄した。 日々業務でも室内の環境整備、玩具のアルコール拭き等を必ず行っている。	施設内の物品管理を行い、整理整頓を継続していく。 クラスの園児の状態に合わせた支援の在り方を工夫していく。 日々の環境整備、衛生面についてはクラス職員、保健を中心に継続を図っていく。
2	利用開始時の説明の徹底 保護者の95%が「事業所を利用する際に、重要事項書、療育プログラム、利用者負担金等について丁寧な説明をしている」と評価している。新規利用者は利用開始前に重要事項説明・契約・クラス説明の機会を確保し実施している結果が示されている。	年度始めは新規の利用者が多いため2日間、午前午後と計4回に分けて重要事項説明、契約、クラス説明を行っている。その際分からないことには職員が個別に丁寧に対応するよう心がけている。近年は外国籍の利用者が多くなり、出来る限り顔を合わせて場やモノを見ながらの説明、翻訳アプリの活用等ひとりひとりに応じて工夫しながら行っている。	利用開始時に保護者に情報を分かり易く伝えていくための準備の充実を図る。 個別対応が必要な場合は状況を把握して対応に丁寧に当たることの継続を図る。
3	保護者への情報発信・面談等による情報共有 保護者の96%が、情報連絡システム（すぐー）などのツールを活用した情報発信に高い満足度がある。またクラスの定期的な面談等での助言などの支援に評価が高い。複数担任により状態の分析や話し合いが出来ることが強みである。	面談時、登園・降園時の対話、情報連絡システム（すぐー）アプリを活用した活動記録等の配信、定期的な面談、クラスだよりや活動プログラムの配信等を実施している。保護者の相談の緊急性に応じて迅速に電話でやりとり、または面談日以外に話す機械を設けている。	保護者または懇談会等において保護者の関心が高いテーマに関するミニ勉強会を開催し、子どもをどう捉えるか等理解するための機会を設けていく。また月1回と頻度が少ない保護者面談のあり方を検討していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の中で他の子どもと活動する交流 「保育園や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他の子どもと活動する機会があるか」について職員(56%)、保護者(40%)が「いいえ、わからない」と回答している。	亀戸移転前は扇橋地域の保育園と一日支援コースの年長児の交流を実施していたが、コロナ禍移行行われていない。 昨年度は移転により引越しがあり、園児や利用者、職員が亀戸で環境に慣れることに重点が置かれたため。	同じ建物の1階の保育園との交流の機会を図ることを検討していきたい。並行通園児が多く一日支援コースで通園頻度が多くて2回のため、保護者のニーズの把握や園との打合せや調整が必要である。
2	利用者の45.5%は「非常災害に備えて定期的に避難、救出、その他の必要な訓練が行われているか」について「いいえ、とちとちいえない、わからない」と回答している。	亀戸移転後は管理、防災委員で避難ルート確認、避難リュックの置き場所等の確認等を行い、12月に1回園児と職員全体での垂直避難訓練を実施した。当日のグループ以外は実施が無いことや情報の発信が行われていないことが要因と考えられる。	マニュアルを基づく避難・防災訓練の実施を図っていく。 マニュアルの見直しや検討が必要である。 実施計画やグループ、実施後の情報発信をお便りやホームページ等を活用して行っていく。